

普及項目	漁場環境
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	八代海

## 有害赤潮プランクトン検鏡に関する技術指導

天草広域本部水産課・松谷久雄

### 【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、6月から9月の間に有害赤潮が発生する傾向にあり、有害赤潮プランクトンの種や発生場所によっては、魚介類養殖業に深刻な漁業被害をもたらすことがある。そのため、県水産研究センター、天草市水産研究センター、漁協、漁業者は、被害の軽減を目的に赤潮モニタリングを行い、結果を赤潮情報として発信している。

赤潮モニタリングは、顕微鏡による種判別と計数による発生量の把握（以下「検鏡」という。）が基本である。しかし、検鏡技術については、管内関係機関において技術レベルに差異があり、十分な技術を有していない機関も存在する。

天草管内の魚類養殖漁場は大別すると大矢野・松島、龍ヶ岳・倉岳・栖本、御所浦、本渡・新和、深海・牛深の5地域に分かれる。令和元年度（2019年度）に龍ヶ岳・倉岳・栖本と御所浦の2地域で技術指導を実施したため、今年度は、5地域のうち残り3地域において、技術指導することを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

今年度は熊本県海水養殖漁業協同組合の若手職員及びブリ養殖業者を対象に検鏡研修を開催し、赤潮モニタリング体制の強化を図った。

月日	令和2年（2020年）7月30日
場所	熊本県海水養殖漁業協同組合牛深実験室
参加者	熊本県海水養殖漁業協同組合職員 5名（深海・牛深） ファームチョイス株式会社社員 2名（本渡・新和）
研修内容	①赤潮の概要説明 ②今年度の赤潮発生の見通しなど ③検鏡対象種（有害赤潮プランクトン）の説明 ④調査・検鏡に必要な用具の説明 ⑤有害赤潮プランクトン培養株の検鏡、動画の紹介

### 【成果・活用】

参加者の中には有害赤潮プランクトンを検鏡したことがない者もあり、赤潮発生前に実際に見る機会を提供することができた。また、経験豊富な職員との意見交換を実施したところ、実際に赤潮が発生した場合は検鏡の回数が膨大になるとの意見があった。

そのため、今後は確実に検鏡を行う技術に加えて、効率よく検鏡を行うための手法について、技術指導を行う必要がある。

### 【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）



図1 研修風景